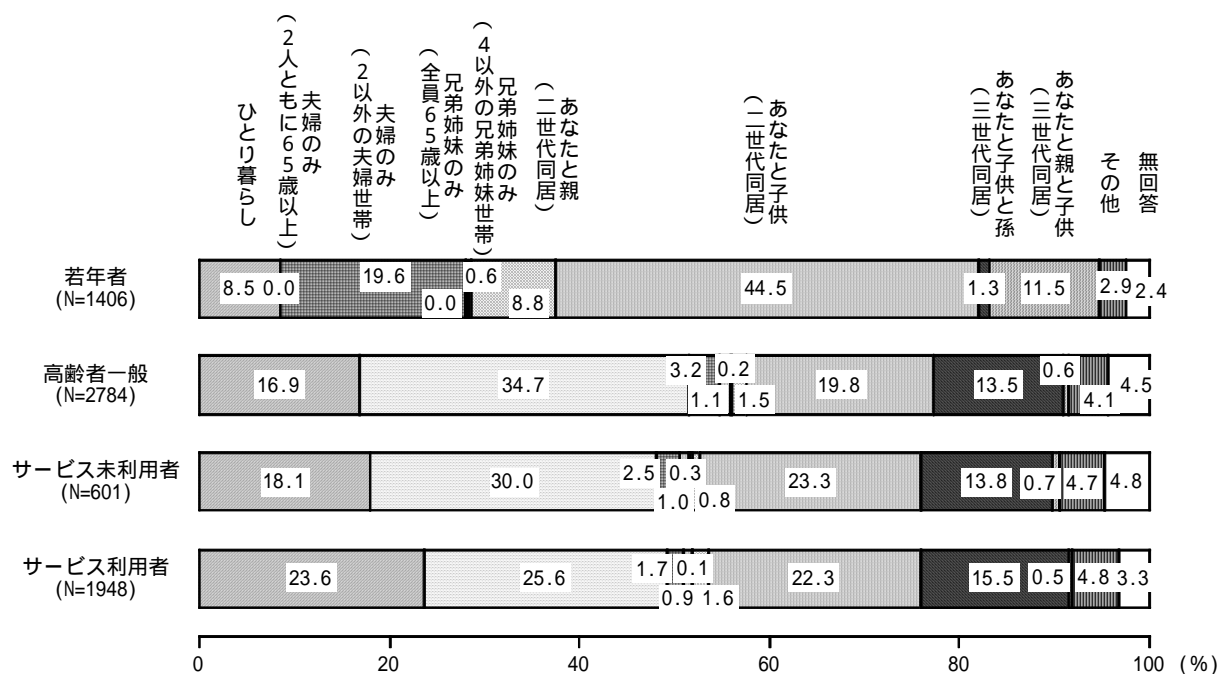


調査種別毎の単純集計比較

1 世帯構成

図 1 世帯構成

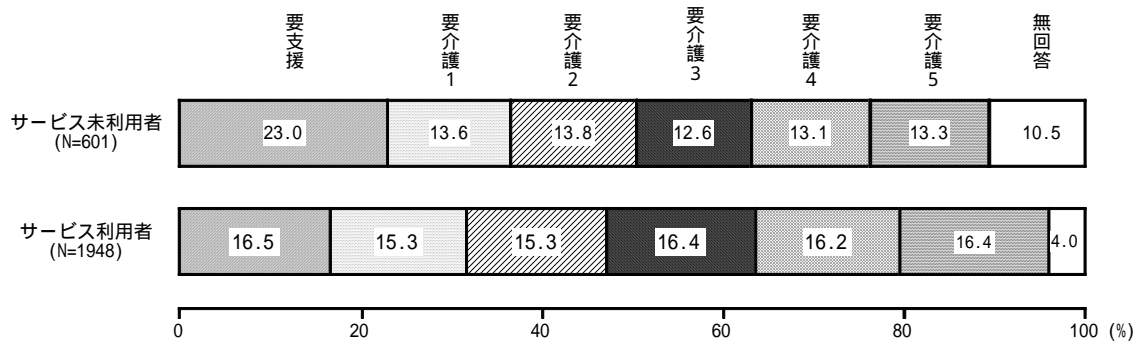


世帯構成をみると、若年者では「あなたと子ども（二世代同居）」が44.5%を占めるのに対し、高齢者一般、サービス未利用者、サービス利用者では「（2人ともに65歳以上の）夫婦のみ」が最も多い。また、サービス利用者では、「ひとり暮らし」が23.6%と、他の調査種別の対象者と比べて割合が高くなっている。

2 要介護度とその変化（居宅サービス未利用者・居宅サービス利用者のみ）

(1) 要介護度

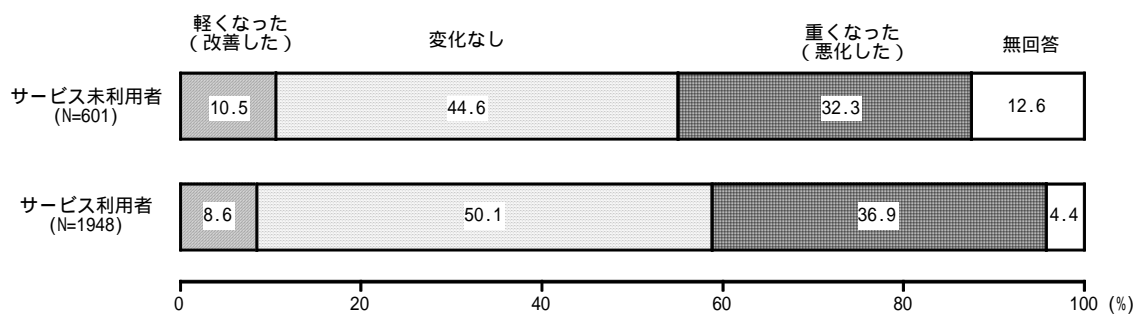
図 2-1 要介護度



要介護度の分布状況を見ると、サービス未利用者では「要支援」が23.0%と最も多く、「要介護1」以上は、各要介護度とも概ね13～14%となっている。これに対しサービス利用者では、要介護3・4・5がそれぞれ約16%となっている。

(2) 要介護度の変化

図 2-2 要介護度の変化

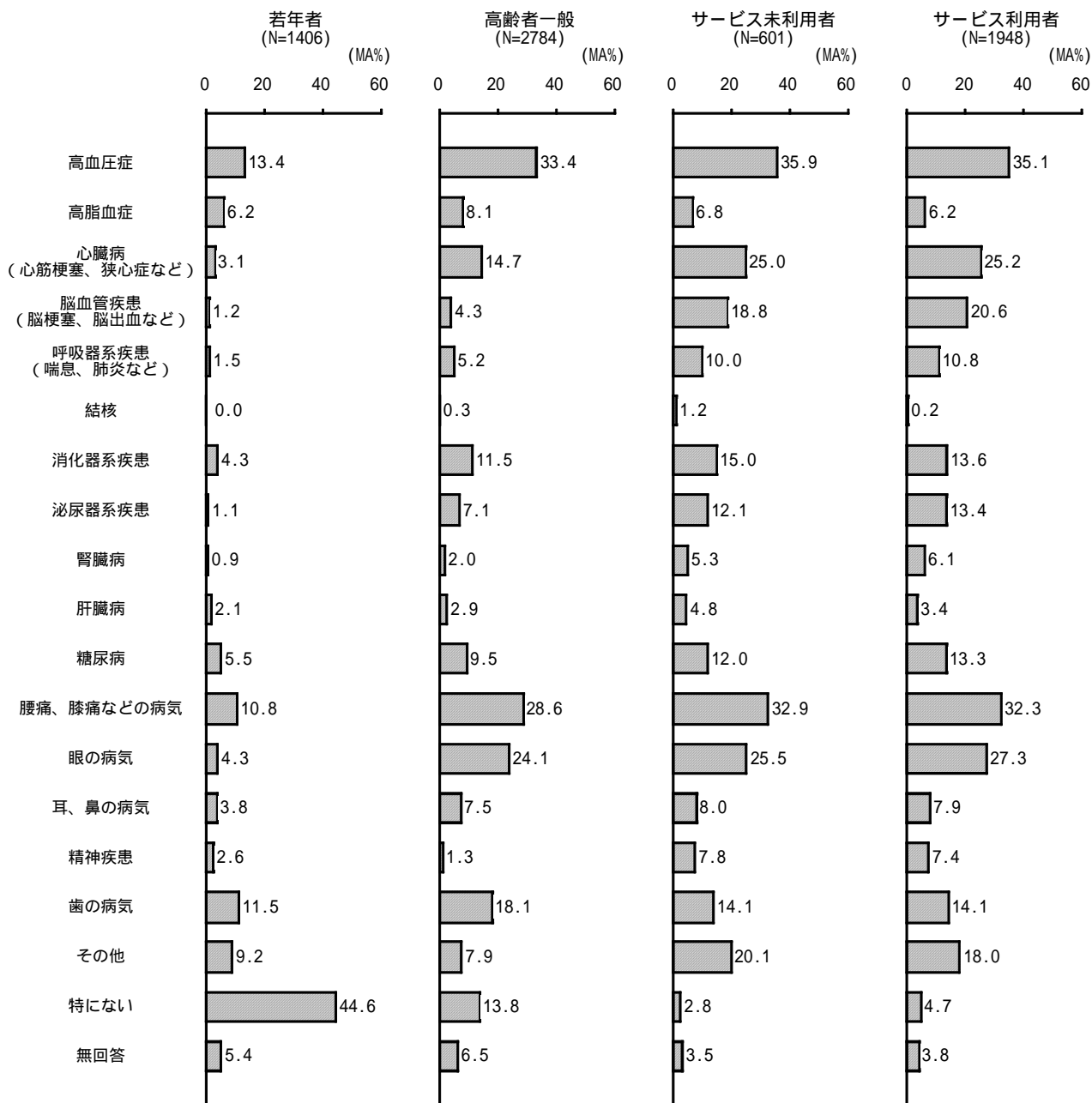


要介護度の変化については、サービス未利用者・利用者ともに「変化なし」が4～5割台と最も多く、次いで「重くなった（悪化した）」が3割台となっており、「軽くなった（改善した）」は1割以下である。

3 現在治療を受けている病気と転倒経験

(1) 現在治療を受けている病気

図 3-1 現在治療を受けている病気

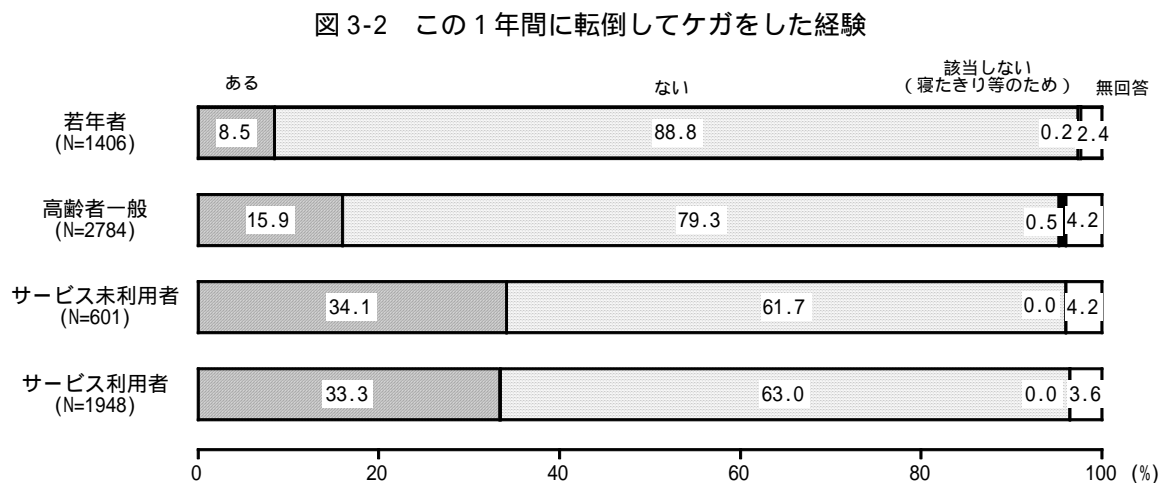


現在治療を受けている病気をみると、上位項目である「高血圧症」「腰痛、膝痛などの病気」は、若年者において1割程度であるが、高齢者一般、サービス未利用者及び利用者では若年者の2～3倍近い割合となっている。

また、サービス未利用者・利用者は、高齢者一般と比べて「心臓病（心筋梗塞、狭心症など）」「脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）」の割合が高くなっている。

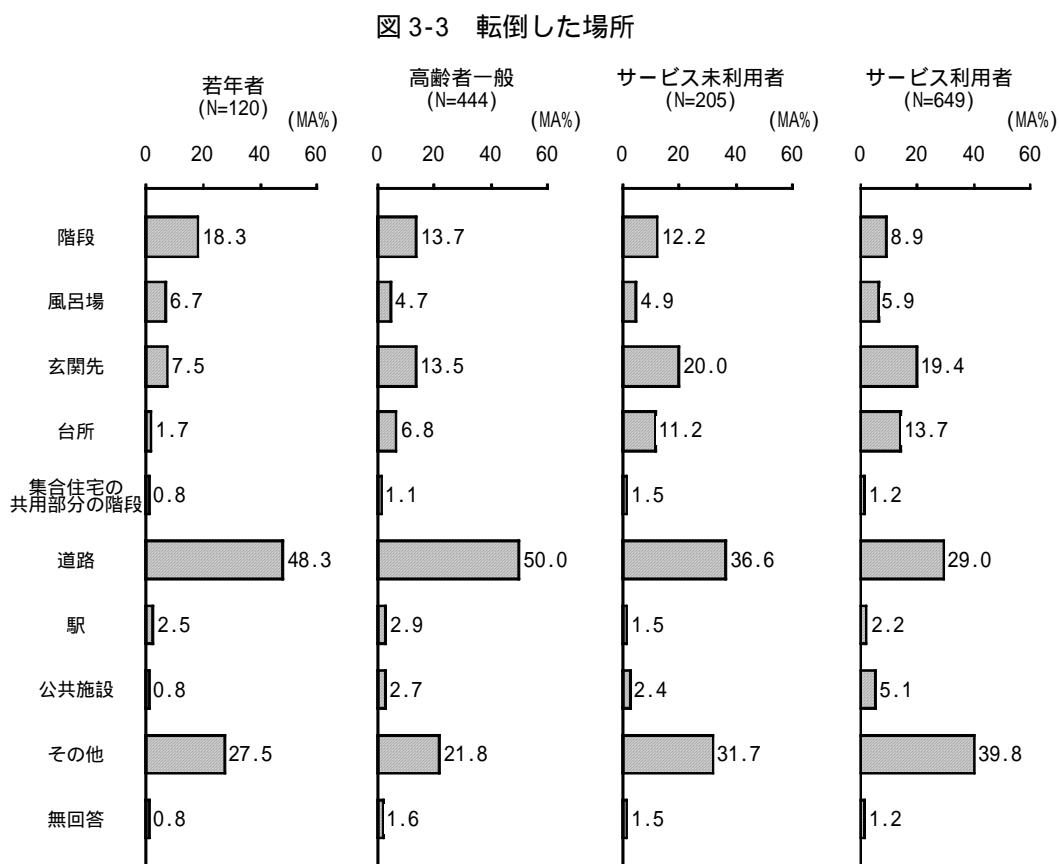
(2) 転倒経験

ア この1年間に転倒してケガをした経験



この1年間に転倒してケガをしたことがある割合は、若年者 8.5%、高齢者一般 15.9% に対し、サービス未利用者・利用者では3割台となっている。

イ 転倒した場所

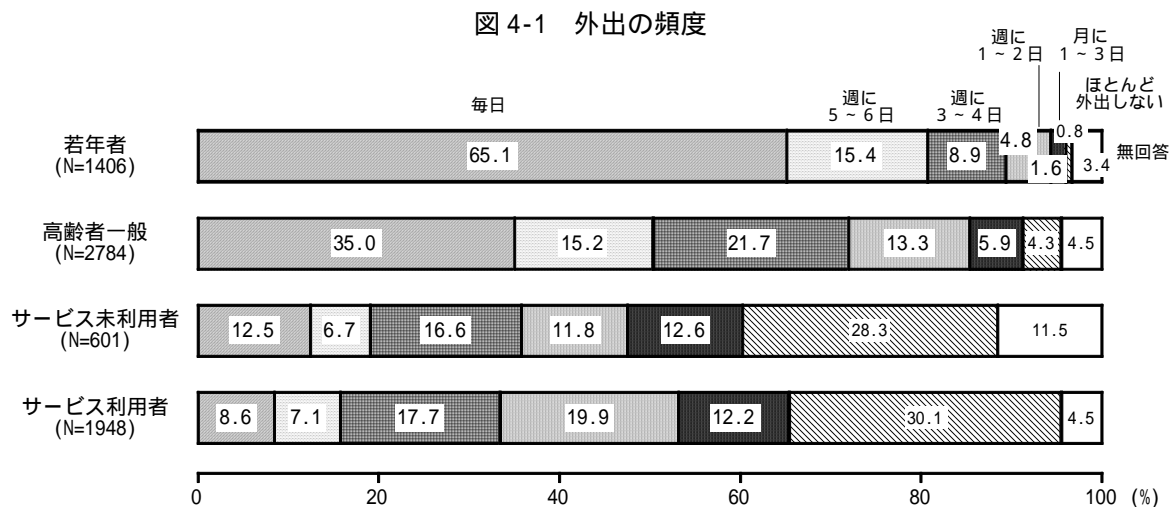


転倒した場所については、いずれの場合も「道路」が約3～5割と最も多いが、若年者及び高齢者一般と比べて、サービス未利用者・利用者では「玄関先」「台所」の割合が高くなっている。

4 外出の状況と生きがい活動への参加状況

(1) 外出の状況

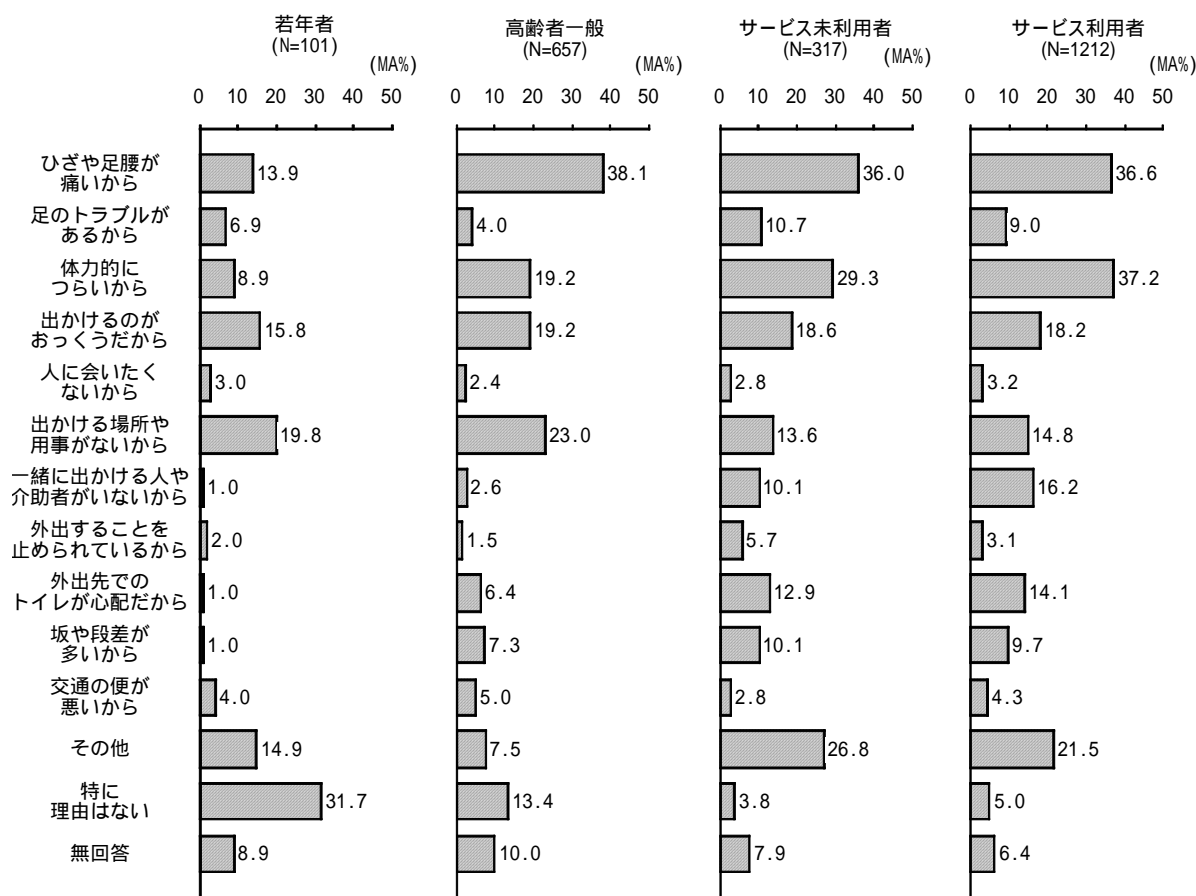
ア 外出の頻度



外出の頻度をみると、若年者及び高齢者一般では、週に3日以上外出している人が7割以上を占めているが、サービス未利用者・利用者では3割台にとどまっている。

イ 外出を控える理由

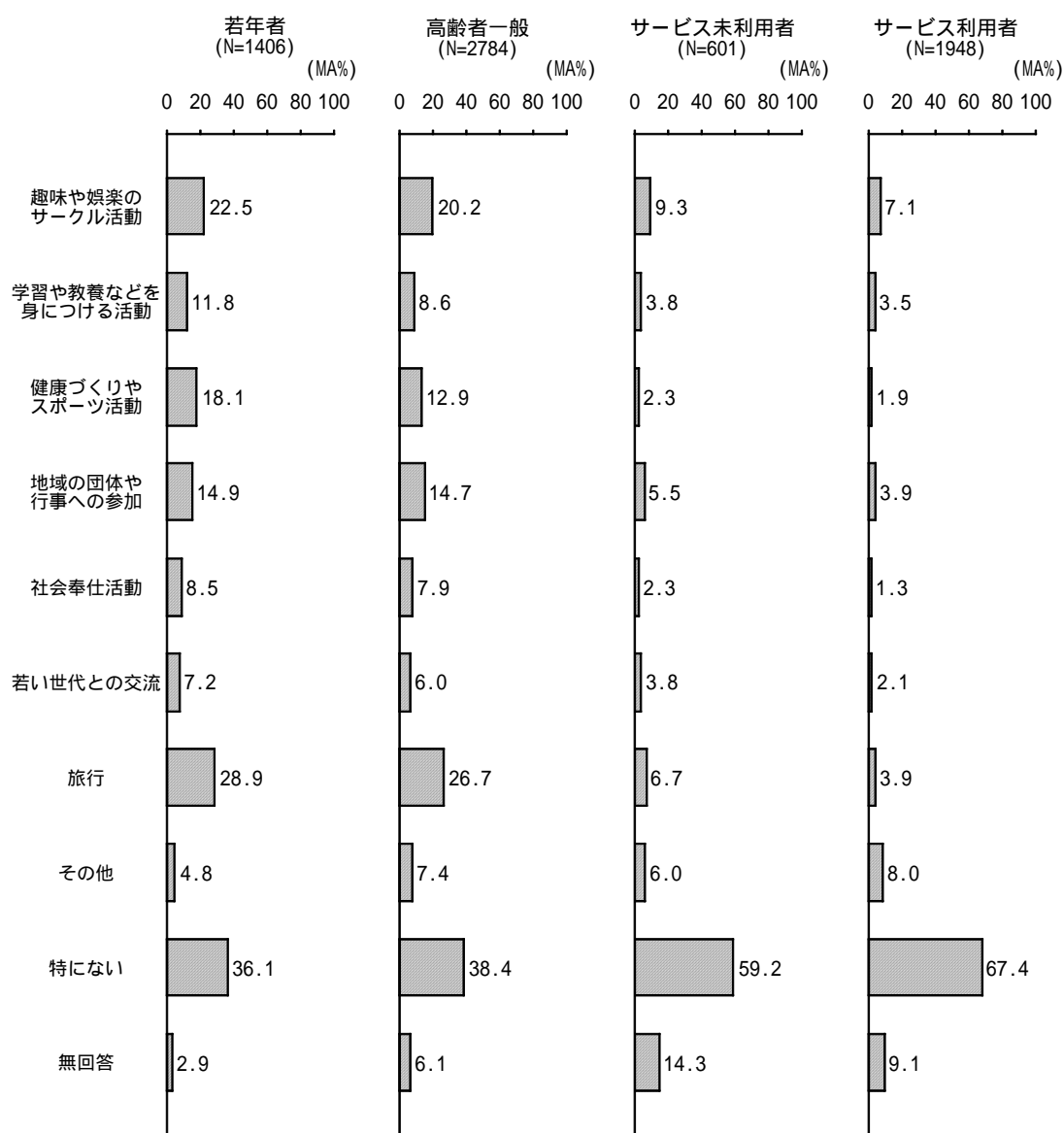
図 4-2 外出を控える理由



外出を控える理由としては、高齢者一般、サービス未利用者・利用者では「ひざや足腰が痛いから」が3割台と多く、これと並んで、サービス未利用者・利用者では「体力的につらいから」が多い。一方、高齢者一般では、「出かける場所や用事がないから」（23.0%）が第2位となっている。

(2) 生きがい活動への参加状況

図 4-3 生きがい活動への参加状況

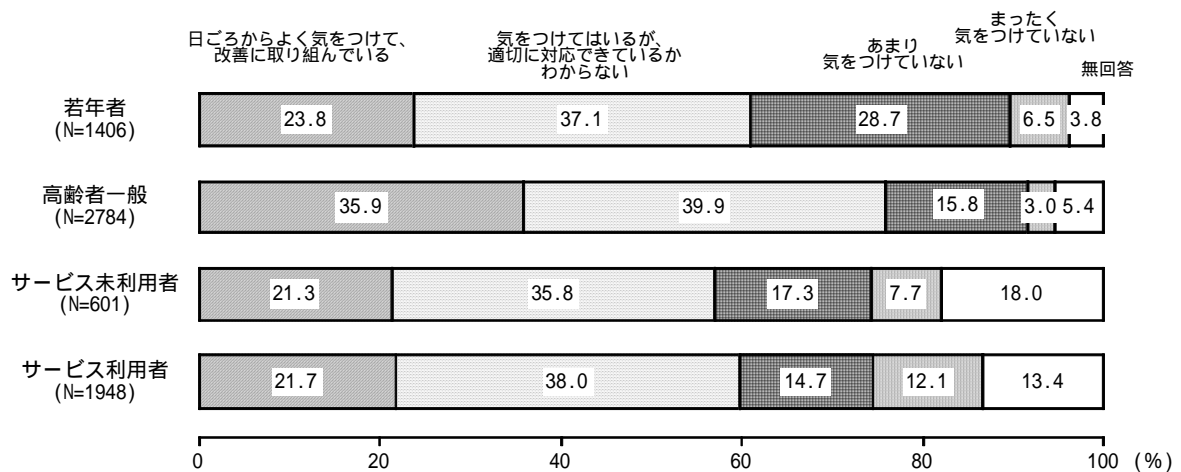


生きがい活動への参加状況をみると、若年者及び高齢者一般では約6割が何らかの活動に参加しており、内容としては「旅行」や「趣味や娯楽のサークル」が多くなっている。サービス未利用者・利用者では、活動への参加割合が全体として低くなっている。

5 介護予防と介護のあり方について

(1) 心身の変化に対する意識

図 5-1 心身の変化への対応・改善の有無

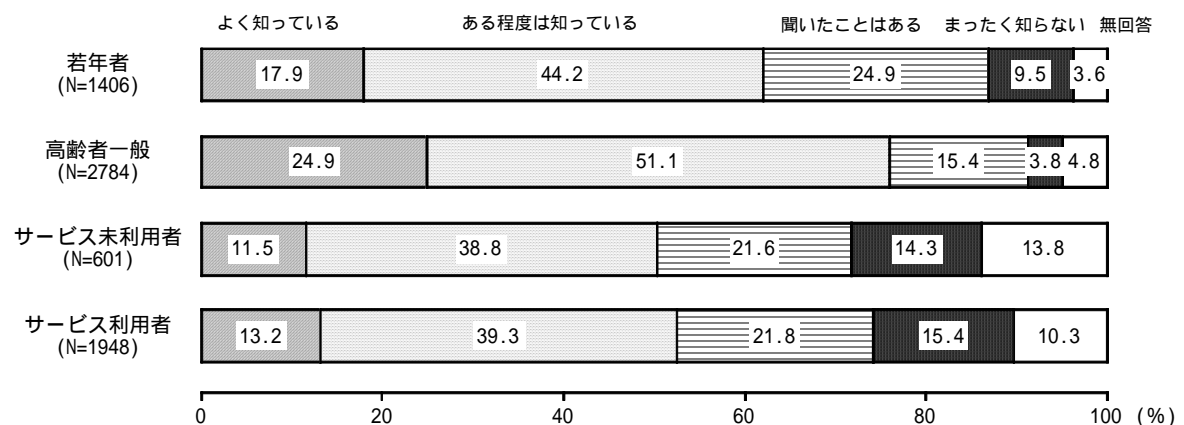


心身の変化に対して「日ごろからよく気をつけて、改善に取り組んでいる」割合は、高齢者一般が 35.9%と最も高く、若年者及びサービス未利用者・利用者では、2 割台にとどまっている。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

ア 老化予防・介護予防に関する理解

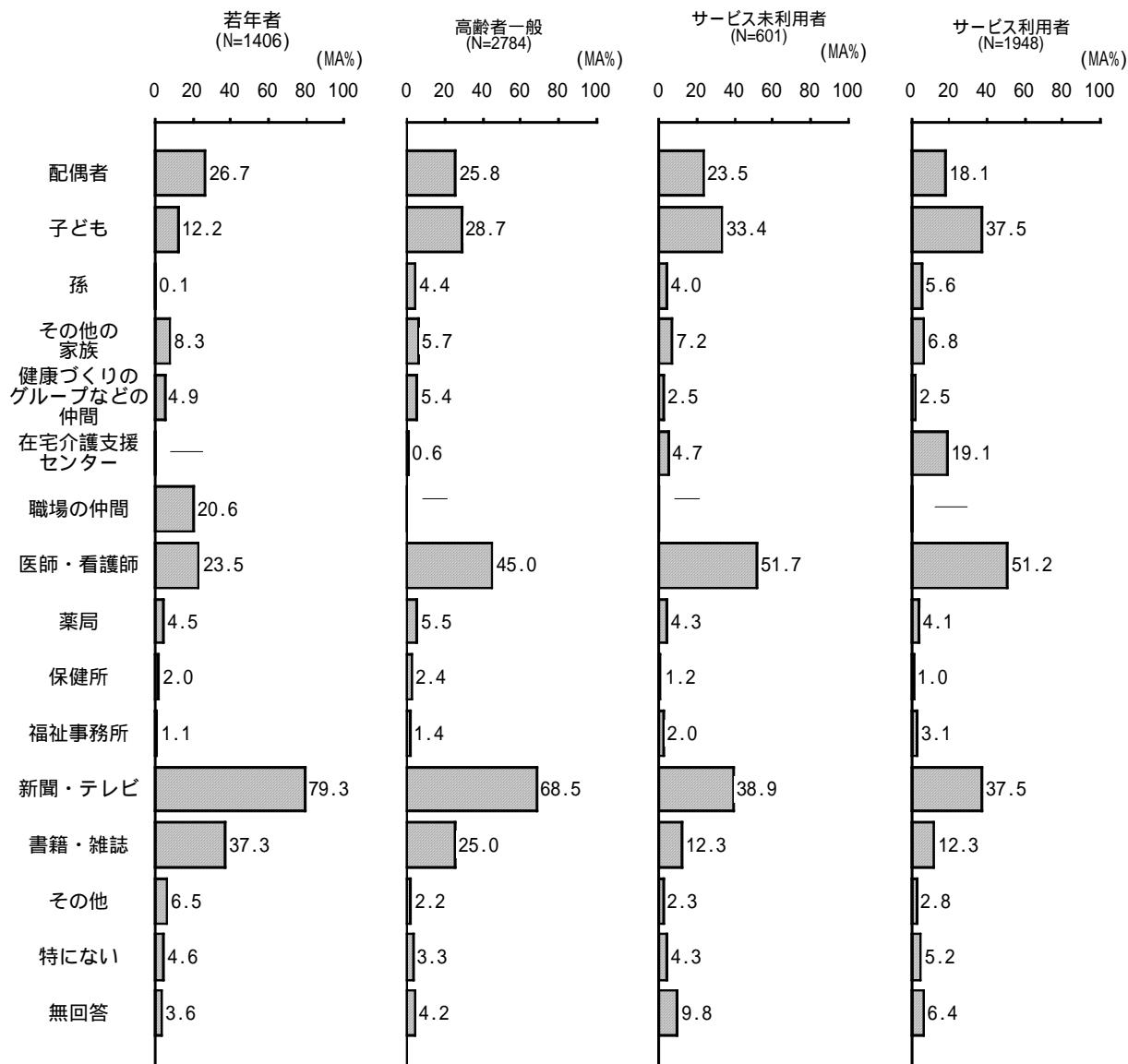
図 5-2 老化予防・介護予防に関する理解



老化予防や介護予防について「知っている」割合（「よく知っている」に「ある程度は知っている」を加えた割合）は、高齢者一般では 76.0%となっているが、若年者では約 6 割、サービス未利用者・利用者では約 5 割にとどまっている。

イ 病気・老化の予防や健康づくりに関する情報源

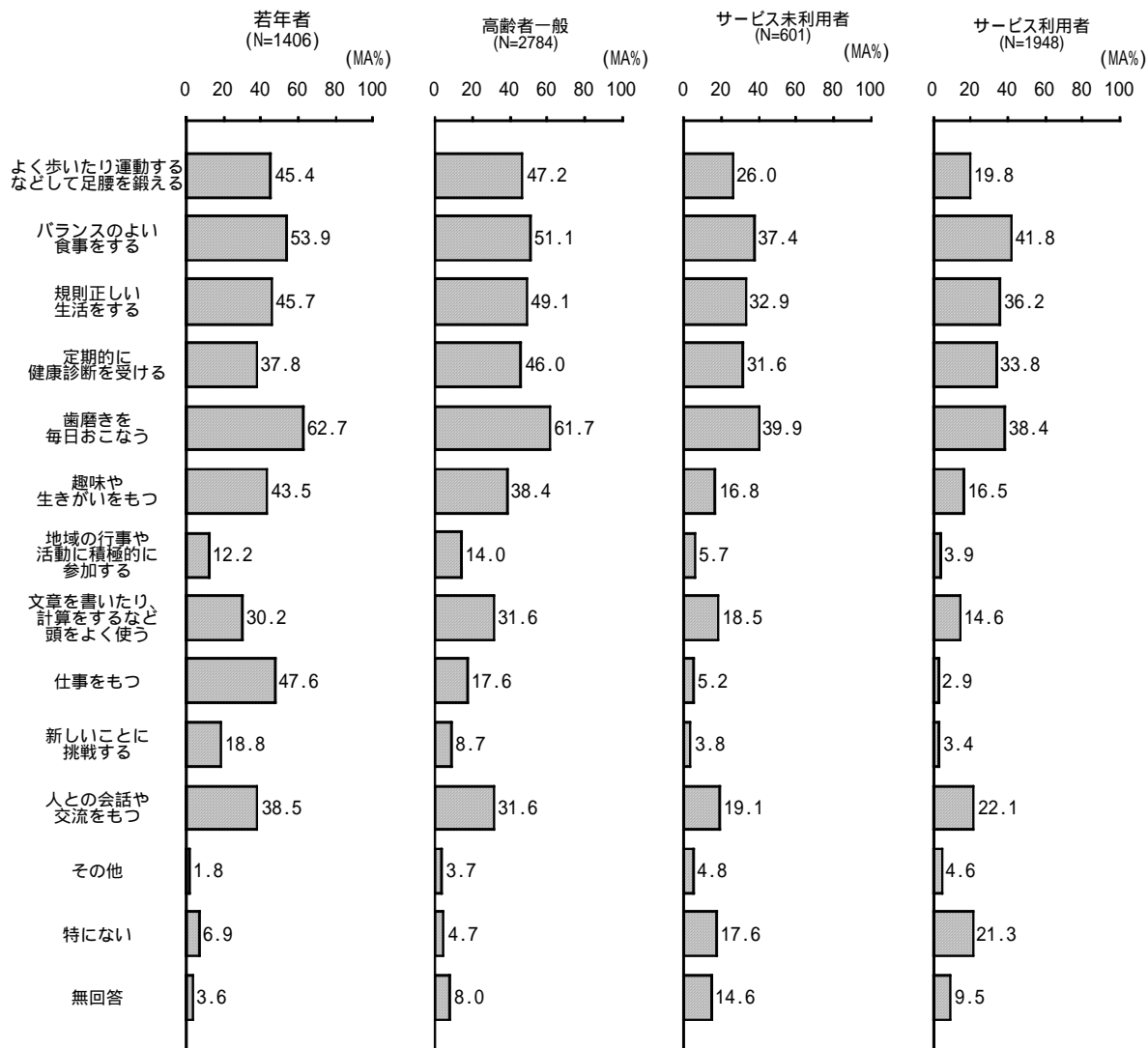
図 5-3 病気・老化の予防や健康づくりに関する情報源



病気・老化予防や健康づくりに関する情報源をみると、若年者及び高齢者一般では「新聞・テレビ」が6～7割台、サービス未利用者・利用者では「医師・看護師」が5割強とそれぞれ最も多くなっている。

ウ 病気・老化の予防のため取り組んでいること

図 5-4 病気・老化の予防のために取り組んでいること

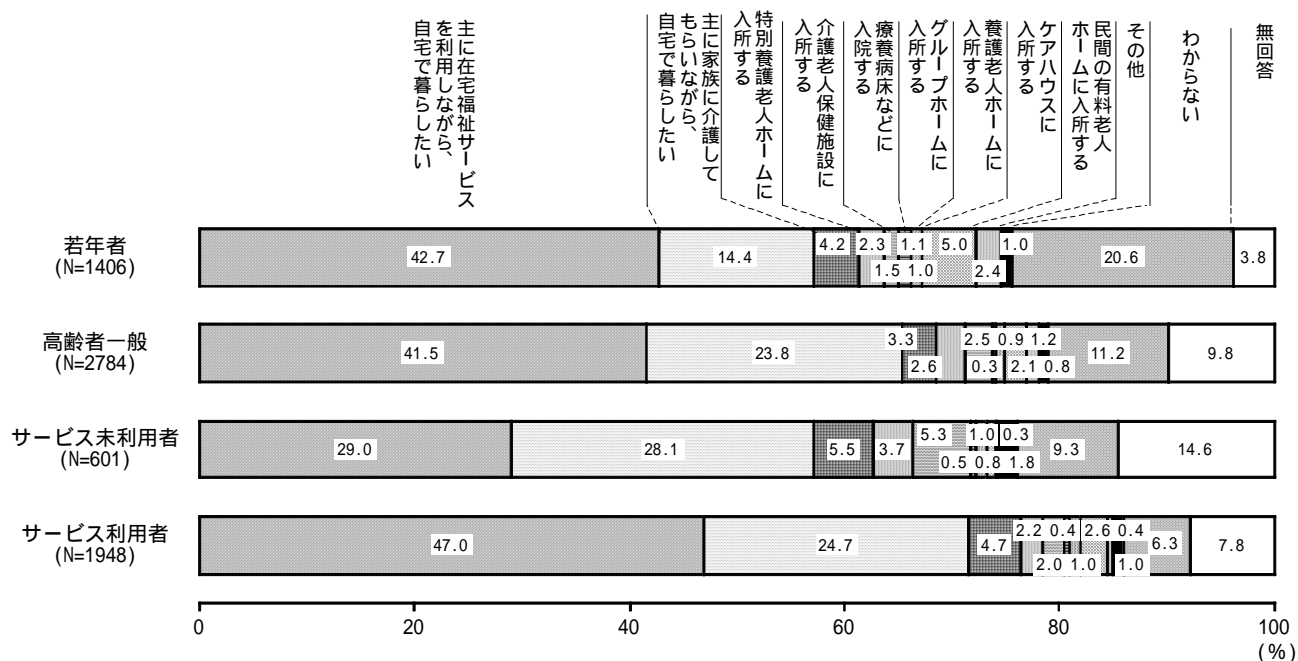


病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、若年者及び高齢者一般では「歯磨きを毎日行う」が6割強と最も多く、「バランスのよい食事をする」「規則正しい生活をする」「よく歩いたり運動するなどして足腰を鍛える」なども4割以上となっている。このほか、若年者では「仕事をもつ」(47.6%)が第3位となっている。

サービス未利用者・利用者については、全体的に割合が低いものの、「歯磨きを毎日行う」「バランスのよい食事をする」「規則正しい生活をする」「定期的に健康診断を受ける」の4項目が3割以上となっている。

(3) 住まいと介護について希望する暮らし方

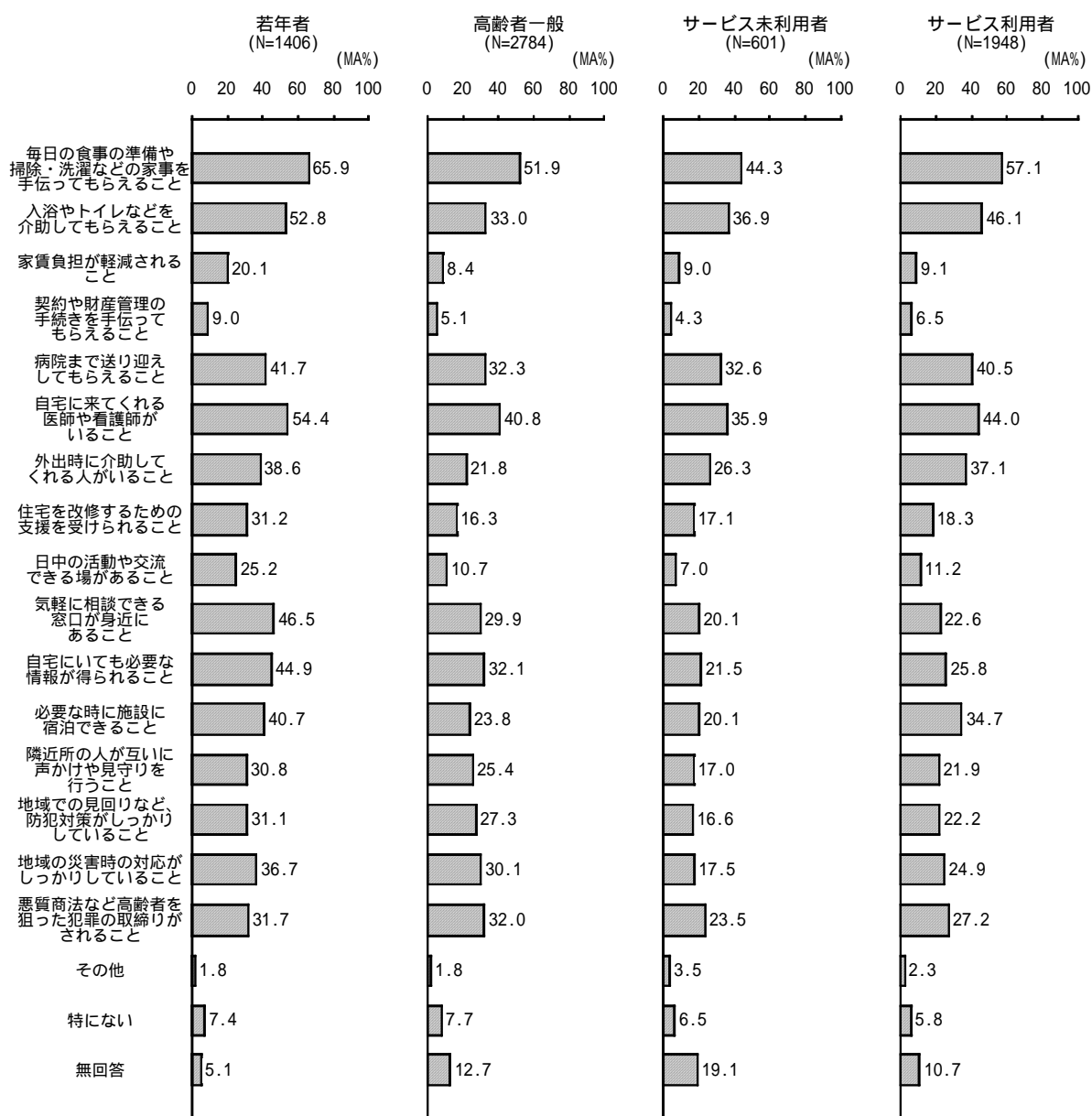
図 5-5 住まいと介護について希望する暮らし方



住まいと介護について希望する暮らし方をみると、若年者・高齢者一般及びサービス利用者では、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が4割を超えているが、サービス未利用者では約3割にとどまり、これと並んで「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」(28.1%)が多くなっている。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 5-6 在宅生活を続けていく上で必要な支援



在宅生活を続けていく上で必要な支援については、いずれの調査種別でも「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が4～6割台と最も多く、若年者及び高齢者一般では、次いで「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」、サービス未利用者・利用者では、次いで「入浴やトイレなどを介助してもらえること」が多くなっている。

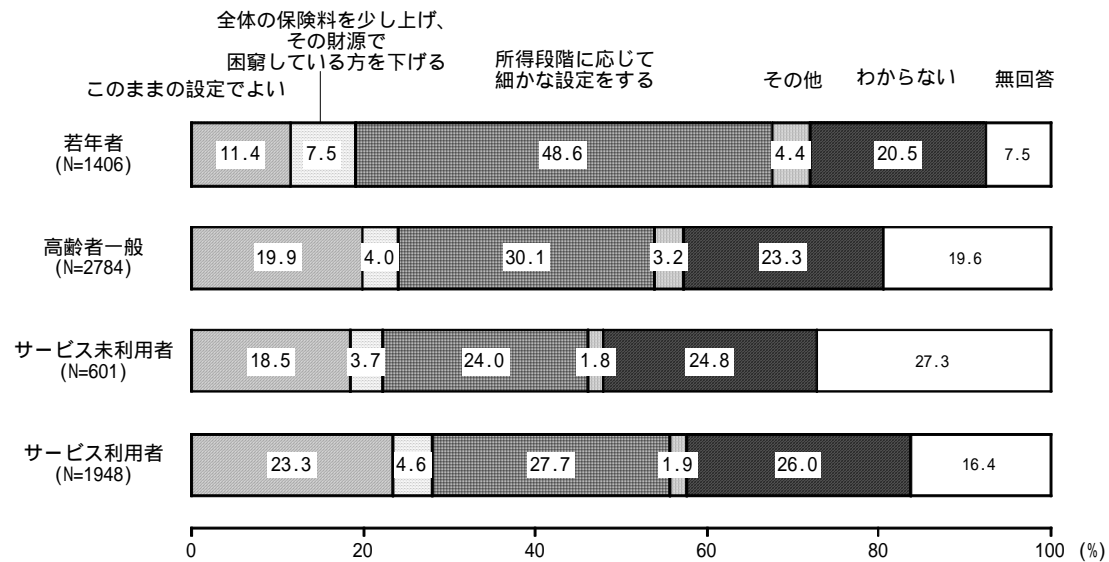
また、若年者及び高齢者一般は、「気軽に相談できる窓口が身近にあること」「自宅にいても必要な情報が得られること」などの割合がサービス未利用者・利用者と比べて高くなっている。

6 介護保険制度について

(1) 保険料の設定及び給付と負担のあり方についての意向

ア 介護保険料の設定について

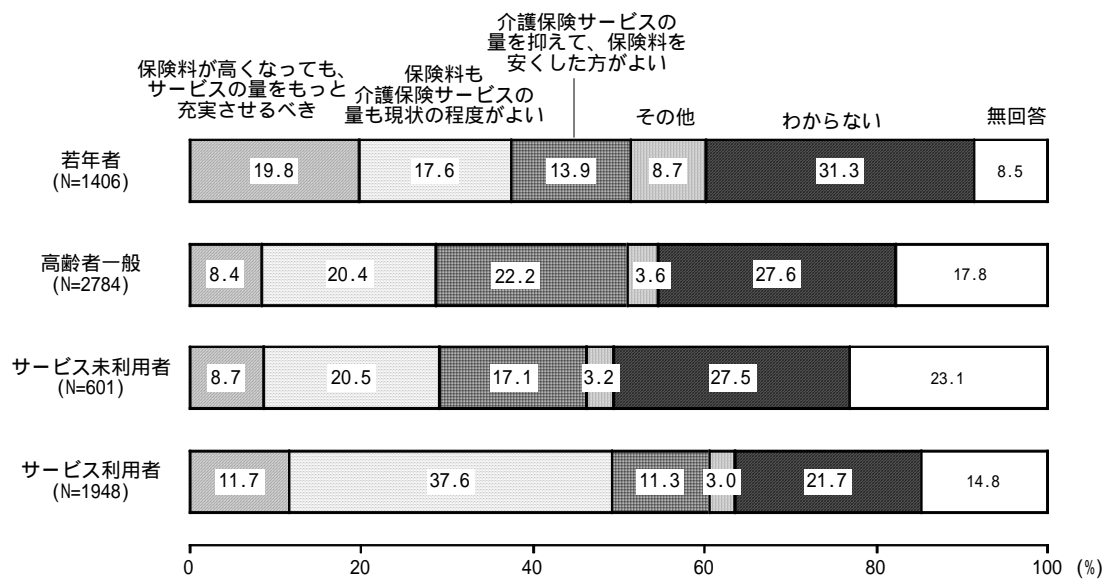
図 6-1 介護保険料の設定について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法について、「所得段階に応じて細かな設定をする」の割合は、若年者が48.6%と最も高くなっている。

イ 今後の保険料のあり方について

図 6-2 今後の保険料のあり方について



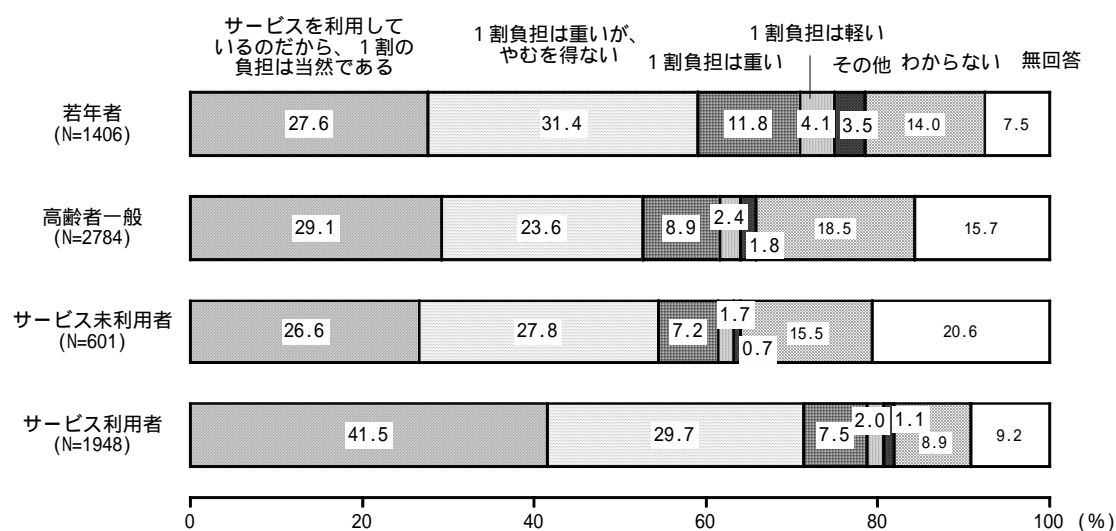
介護保険料の今後のあり方について、若年者では「保険料が高くなっても、サービスの量をもっと充実させるべき」(19.8%)と「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」(17.6%)が同程度の割合となっている。

これに対し高齢者一般及びサービス未利用者では、「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」と「介護保険サービスの量を抑えて、保険料を安くした方がよい」が同程度の割合となっている。

サービス利用者においては、「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」が37.6%と多くなっている。

ウ 利用者負担について

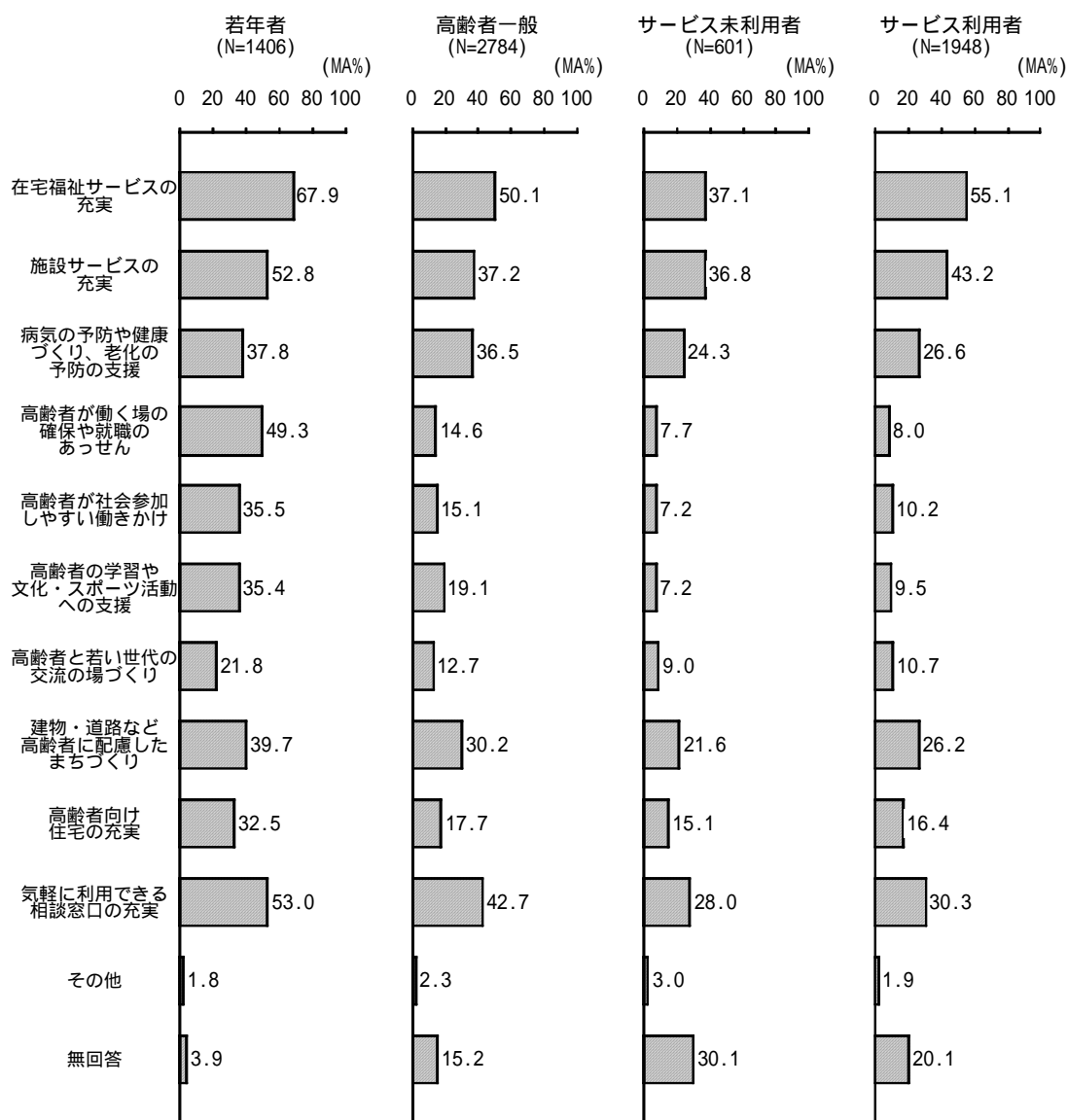
図 6-3 利用者負担について



介護サービス利用にかかる1割負担については、サービス利用者のみ「サービスを利用しているのだから、1割の負担は当然である」が約4割となっているが、それ以外の調査種別では「サービスを利用しているのだから、1割の負担は当然である」と「1割負担は重い、やむを得ない」がそれぞれ2～3割台みられる。

(2) 高齢者保健福祉施策に対する要望

図 6-4 高齢者保健福祉について充実を希望する施策



高齢者保健福祉について充実を希望する施策としては、サービス未利用者以外の調査種別では、「在宅福祉サービスの充実」が5割以上となっている。また、「気軽に利用できる相談窓口の充実」は、若年者が53.0%と最も高く、次いで高齢者一般42.7%となっている。

このほか、若年者では、「高齢者が働く場の確保や就職のあっせん」をはじめ、「高齢者が社会参加しやすい働きかけ」「高齢者の学習や文化・スポーツ活動への支援」などが、他の調査種別と比べて高くなっている。